



発行所：メディカルサテライト八重洲クリニック

東京都中央区八重洲 1-5-9 八重洲アメレックスビル9F



0120-786-055

TEL03-3516-8020 FAX03-3516-8022

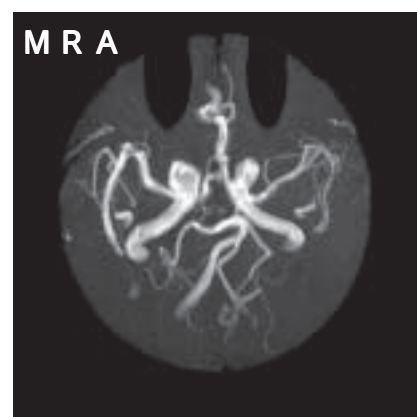
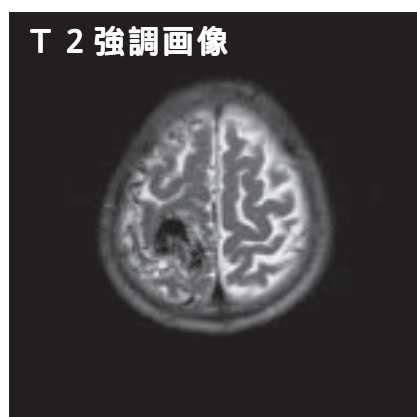
画像診断報告書分析 ～ AVM（脳動静脈奇形）～

1 .臨床状況（当院へ検査に来られる前の患者様の状況）

受診されたのは60歳前半の男性です。

この患者様は検査2日前より強いめまいと歩行時のバランス感の異常が発症し、4～5日前から左上肢、両下肢の痺れ感が続いているため、かかりつけ医での診察後、当院にて検査試行となりました。めまい発症時に近医にて頭部CT検査を試行しましたが、CTでははっきりとした診断は得られなかったようです。右頭頂葉のAVM（動静脈奇形）フォローアップ中でもあるため、

AVMと現在の症状との関係、その他病変の検索目的で頭部MRI検査を施行いたしました。



2 .AVM（脳動静脈奇形）とは

脳動静脈奇形（arteriovenous malformation: AVM）は先天性ですが非遺伝性の血管奇形で、異常な動脈（流入動脈）と静脈（流出静脈）が毛細血管を介さずに直接吻合し、「ナイダス（nidus）」と呼ばれる異常な血管塊を有します。正常な血管に比べ壁が薄く、かつ直接吻合のため血流が早いので、脳内出血、クモ膜下出血の原因となり、しばしば致命的となります。とくに若年者の脳出血の原因疾患として重要です。

上記のように出血してから見つかる場合が多いですが、痙攣や麻痺により見つかる場合や、また近年の画像検査の普及により偶然に見つかることがあります。

MRIはこの脳動静脈奇形を鋭敏にとらえることが可能です。とくにT2強調画像やプロトン密度強調画像では、早い血流が無信号（flow void）として見えることから、ナイダスが蜂巢状の無信号域（honeycomb of flow voids）として、流入動脈、流出静脈とともに明瞭に描出され、周囲脳組織の出血によるヘモジデリン沈着の有無や、浮腫、グリオシスの程度と合わせて評価することができます。

またMRAでは、早い血流を上記とは逆に高信号として描出することができ（Time-of-Flight効果）、さらに3次元再構成により様々な角度から観察できることから、ナイダスと流入動脈・流出静脈の位置関係を把握するのに役立ちます。通常は造影剤を用いずに描出できますが、血流の遅いナイダスや流出静脈の描出能については、造影剤を用いた方が向上します。

（次のページへ）

(前ページから)

脳血管奇形の治療方法としては、開頭による摘出術、ガンマナイフ(定位放射線治療)、経カテーテル的塞栓術があり、しばしばこれらの組合せが併用されます。しかしながら、病変の完全摘出は困難なことが多いこと、また比較的low侵襲であるガンマナイフでは治療可能な範囲に制限があるため治療対象が限られること、さらに経カテーテル的塞栓術でも根治できる症例は多くないことなどの問題があります。無症状や軽症の場合は保存的に経過観察されますが、治療せずに放置すると統計学的には2~3%の確率で出血を生じるとされており、治療方針については専門医が総合的に判断する必要があります。

3. 今回の診断

(1) 検査後の読影の結果、AVMと現在の症状との関係

現在のめまい、バランス異常、左上肢、両下肢の痺れ感とAVMとの関係につきましては、断定的な判断を下すことはむずかしいです。

しかしながら、AVMの異常血管塊は、異常血管塊の大きさ4cm強、右前頭葉主体に一部頭頂葉にかけて右中心前回を含むように位置しており、血管塊周囲には若干の浮腫性変化を伴っておりました。この位置はバランス異常などの左錐体路症状の原因になる可能性があるため、治療適応についての検討が必要です。

(2) その他の病変の検索

特に異常が認められませんでした。

(放射線科専門医：山田晴耕)

次回講演会の開催日を、11月25日(木)に変更いたします。

先日の八重洲ニュースにおきまして、次回講演会の開催日を9月16日(木)とお知らせいたしましたが、**11月25日(木)**に変更させていただきます。

最近、検査が混んで参りましたためにご希望の日に検査予約が入らないケースが出て参りまして、大変申し訳ありません。この問題を改善すべく、MRIの増設とCTのバージョンアップを計画しており、近々実現化させる予定です。次回講演会では、この件につきましても、詳細をご報告させていただく所存です。

後日、ご案内状をお送りさせていただきますので、何卒、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

取り急ぎまして、以下に概要をお知らせさせていただきます。

記

日時：2004年11月25日(木) 19:00~20:45

場所：東京八重洲ホール(東京駅より徒歩5分)

講師：日本大学医学部 法医学教室 主任教授 押田茂實先生

テーマ：『インフォームドコンセントと法的責任について』

また、今回のテーマに関しまして、内容についてのご要望がございましたら、是非、事前にお教えいただければ幸いです。講演内容に盛り込ませていただきます。お気軽にご連絡くださいますようお願い申し上げます。

(院長 茅野文利)